



メロディ・インターナショナル株式会社



CEO

尾形 優子 Ogata Yuko

企業・団体情報

所在地：香川県高松市林町2217-44 ネクスト香川304

設立：平成27年7月27日

従業員：7名

資本金：107,066,850円

H P : <https://melody.international/>

アカデミアとビジネスの垣根を越えて香川から世界へ

今回の取材先「メロディ・インターナショナル株式会社」は、香川の産学官連携の聖地「香川インテリジェントパーク」にオフィスを構えています。

「今日はITベンチャーの取材やね。話に付いていけるやろか?」。恐る恐る扉を開いたその先で、超文系人間を笑顔で迎えてくださった尾形優子CEO。世界中の妊婦さんと赤ちゃんを幸せにするハッピーオーラに溢れていました。

リケジョが医療ITの魅力にどハマリ!?

今から遡ること20年。香川県内のIT企業でエンジニアをしていた尾形氏は、「電子カルテの標準化」を研究・開発するコンソーシアムに参加することになったという。

一国として医療業界のIT化を推進していた時期で、コンソーシアムには地元大学や地域企業が複数参画していました。

当時のカルテは医師による手書きが主流。電子化すれば省力化や連携活用ができ、医療従事者の支援はもとより患者を助けることに繋がるなど。大きな可能性を感じ、プロジェクトに没頭しました。

原量宏教授との出会いが転機に

そのコンソーシアムで、香川医科大学(現・香川大学医学部)の教授であり、産婦人科医の原量宏教授との出会いがあった。

一周産期医療の現状や課題を知りました。今でこそ香川の周産期死亡率の低さは全国トップクラスですが、当時はワースト5位以内の常連だった。

また、産科分野はカルテの記録内容が特殊で、既存の電子カルテは使いにくいことも知りました。母子両方の経過観察が大事ですからね。



その後、「四国4県電子カルテネットワーク連携プロジェクト」は一旦打ち切りになったが、尾形氏は産科分野に特化した「周産期電子カルテ」の必要性を信じ、取り組み継続を会社に直訴したという。

一答えはNOでした。マーケットが限定され、多額の開発費もかかる。大手企業が開発を打ち切っているような状況でしたので、会社としては当然の経営判断ですね。

諦めきれない尾形氏は勤めていたIT企業を退社。「周産期電子カルテ」を開発・販売する会社を起業する。

起業のリアル 先立つものは・・・？

ー資本金1000万円（当時）の壁は高かったですね。
また、商品もなかなか売れなくて。苦労しましたが、研究した「シーズ」と医療分野の「ニーズ」を結び付けたい思いがありました。

地元で協力者を募り、起業後は地道に病院や診療所を訪ね、「周産期電子カルテ」を導入してくれる病院や診療所を少しずつ増やしたという。
尾形氏に地方で起業することについて聞いた。

ー香川県（高松市）は起業支援者の横の繋がりが強いですね。困った時に悩みを聞いてくれる人がいて、一種のエコシステムになっている。私にとって、地方であることはデメリットではなかったです。

「ゆくゆくは起業者を応援する側に回りたい」とも語る尾形氏。小さなオフィスから始めた会社は、のちに産婦人科用電子カルテでトップシェア、中小企業庁長官表彰を受ける企業に成長する。



写真右は、二ノ宮敬治CIO。社長も絶大な信頼を寄せています。

人生は圧倒的な行動力と努力量で決まる

現在、全国的に産婦人科医や産科医院の不足が深刻で、妊産婦の通院や健診負担が増加しているという。

ー妊婦さんの負担を減らしたい。在宅で健診が受けられれば、ためになると。原教授が地域遠隔医療ネットワークを提唱していたことも後押ししましたね。

しかし、経営に諮るも「（遠隔医療は）時期尚早である」という意見が支配的だったとのこと。尾形氏は信頼できる仲間と二度目の起業を決意。現在のメロディ・インターナショナル株式会社を立ち上げる。

原教授はじめ様々な方々の協力・支援を受けながら、在宅で母子の健康状態を確認できる「モバイル分娩監視装置」（下写真）の商品化に漕ぎ着けた。

ーこれで胎児心拍などを計測すれば、その結果が産科医師のタブレットに届き、遠隔診療が受けられます。奄美大島での運用例では、緊急出産の患者をヘリで搬送する際に活躍しています（受入病院側の事前準備が可能となる）。



小さくて可愛いハート型の装置。ブルーが陣痛計でピンクが心拍計。



装着イメージ

世界に届けたい幸せのメロディ♪

この「モバイル分娩監視装置」。国内の離島や僻地のみならず、医師不足が深刻な東南アジア（タイ・ラオス・ミャンマー）や南アフリカなどでも既に運用や実証実験が始まっているという。

最後に、尾形氏の想いを聞いた。

ー国内の普及はもちろんですが、都市部と農村部で医療格差が著しい発展途上国・新興国での普及を加速していきます。世界中の妊婦さんと赤ちゃんの健康を守り、幸せを届けるため、周産期医療にブレークスルーを起こしたいですね！

取材後記

○ニーズとシーズを結ぶため、自ら行動に移すバイタリティ（しかも2回！）。また、「地方」はメリットにもなるという起業観。刺激的で示唆に富んだ取材となりました。（局・総務課 矢野秀典）

○まさにアカデミアとビジネスとを繋ぐ架け橋のような夢に溢れた企業でした。尾形さんのスーパーウーマンなのに常に仲間や支援者への感謝の気持ちを忘れない謙虚な姿勢にも惚れます。（局・総務課 林恭子）

※掲載している情報は令和元年12月時点のものです。
※一部、当社パンフレットから画像を引用しています。